

2025年6月18日発売

英語語源ハンドブック

唐澤一友・小塚良孝・堀田隆一 [著]
福田一貴・小河舜 [校閲協力]

約1000の基本語から広がり・深まり・つながっていく

英語史の専門家による英語語源本

エビデンスに基づいて精選された約1000の基本語を徹底解説。多くの基本語は長い歴史の中で大きく変化している。意味の変遷、形や発音の変化、単語間の関係を丁寧に紐解くことで英語学習を深めることができる。

見出し語に加え、**同根語や類義語などの豊富な関連語も収録**。単語の意味や発音の移り変わりを知ることによって英語学習はより楽しく効率的になる。

執筆者・校閲協力者、全員が英語史の専門家。専門的な知見と読みやすさを兼ね備えた一冊。

paper /ˈpeɪpə-| -po/
図紙、新聞、書類、文書、論文
■パピルスに由来
【語源・由来】
ギリシア語でパピルス（紙）を意味する語に由来し、papyrus（パピルス）と二重読。ラテン語を経由し、14世紀にフランス語から借用。
【歴史】借用当初から「紙」の意
papyrusは14世紀にラテン語から英語に入り、現在まで「パピルス」の意で使われている。一方、同世紀にフランス語から入ったpaperは、papyrusがフランス語において約まったもの由来し、フランス語においてすでに「紙」を意味し、英語でも借用当初から「紙」を表した。紙は中国で発明され、ヨーロッパにも10世紀あるいは11世紀に伝わり、14世紀までには広く生産されるようになっており、paperはその名称として使われた。
【関連】紙の歴史
パピルス紙は古代エジプトで使い始められ、地中海世界にも伝えられ使われたが、中世ヨーロッパにおいては、文書を記録する媒体として子羊等の皮から作られる羊皮紙（parchment）が主流であった。これと並行して、上記のようにヨーロッパに紙が伝わると、これが徐々に普及し、特に15世紀中頃に活版印刷が普及すると、書物等には紙が使われるのが一般的になっていった。

本書の特色



- ・ボキャビルに最適
- ・授業に使えるネタが満載
- ・JACET1000の基本語を徹底解説
- ・基本語に関連した単語も多数収録
- ・専門家による知見と分かりやすさ
- ・英語史の入門書としても活用できる

英語語源 ハンドブック

唐澤一友
小塚良孝 著
堀田隆一

すべての単語に
歴史あり!

約1000の基本語から

広がり 深まり つながっていく!
めくるめく英語の世界。

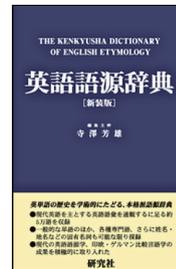
Amazon ランキング 1位



新着「英語」部門で
第1位獲得! 「語学・
辞事典・年鑑」部門で
は第2位。(2025年5月
23日時点)

関連書籍のご紹介

『英語語源辞典』(研究社)



英単語の歴史を学術的にたどる本格派語源辞典。25年にわたり支持されてきたロングセラーで、2024年に新装版が刊行された。現在では希少となった活版印刷の技術を受け継ぐ。

研究社 3,850円 [税込]

『英語語源ハンドブック』を
もっと知りたい方はこちら



内容をチェック!



試し読み



公式サイト



公式 web